

※秘仏であるため、通常は拝観することはできません。



### 金剛定寺のカヤ ■ E・2

カヤは、本州の関東以西から九州にかけて自生する常緑高木です。金剛定寺のカヤは、樹高が約19メートルに及ぶ巨木で、広大な樹冠を持ち均整の取れた姿をしています。

カヤの大木は数が少なく、県内でも珍しいものです。  
(昭和63年12月26日 県指定)



### 銅造宝篋印塔【金剛定寺】 ■ E・2

宝篋印塔は、本来なら宝篋印陀羅尼經を納める塔という意味ですが、鎌倉時代以後は墓碑や供養塔として数多く造られました。塔身の四面に四方仏または梵字が刻まれています。

宝篋印塔は石製のものが多いのですが、この塔は銅製です。江戸時代の元文元年（1736年）に、宇都宮の鑄工・戸村将監藤原元蕃が鑄造したものです。当時の工芸技術を知ることができるものとして重要です。

(昭和32年6月3日 市指定)



### 成願寺のイチヨウ ■ F・2

イチヨウは、中国原産の落葉高木で、各地に街路樹や庭木として植えられています。

このイチヨウは、樹高30メートルに及ぶ巨木で、老木でもあるため乳という大きな気根がたくさん垂れ下がっています。

鎌倉時代の武士・安達藤九郎盛長が植えたという伝説があります。  
(昭和33年1月24日 市指定)



### 木造聖観音菩薩立像【大関観音堂】 ■ F・2

聖観音菩薩は、衆生が救いを求める声を聞くと、自在にこれを救う菩薩としてあつく信仰されてきました。本来は勢至菩薩とともに阿弥陀如来の脇侍となりますが、独立して信仰される場合も数多くあります。

この像は、一般に大関観音とも呼ばれており、銘文はないものの平安時代終わりから鎌倉時代の様式で、完成度の高い堂々たる仏像です。

(昭和33年4月25日 県指定)

※通常は非公開です。



### 刑部城跡 ■ F・3

刑部城は、宇都宮氏の一族・横田安芸守師綱や横田五郎兵衛尉良業が築いたという伝承があり、かれらがここに居住して刑部の苗字を名乗ったとも言われています。

現在、個人の邸宅東側及び南側に土塁と堀が残っていますが、昔は西側や北側にも存在したものとされます。

農村に居住していた中世武士の館の面影を残す史跡です。

(昭和32年6月3日 市指定)



発掘された東山道（平出町）



東山道の平面表示（東谷町・歩道の色を変えています。）

東山道は、現在の近畿地方から東北地方にまたがる古代の行政区画で、下野国（栃木県）もこれに属していました。この地域を貫く幹線道路もまた「東山道」と呼ばれており、現在の宇都宮市内を通っていました。（裏面地図参照）

この道は当時の中央政府が作った道で、公用を帯びた役人や兵士などが主に通行する官道でした。とくに東北地方は、たびたび軍事的な緊張状態があったため、都とつながる東山道は緊急の連絡や軍隊の派遣などのために利用されたと考えられます。



「烽家」と書かれた土器



のろしの実演（飛山城跡）

飛山城の発掘調査の際に、古代の竪穴住居の中から墨で「烽家」と書かれた土器が発見されました。烽とはのろしのことです。緊急事態の際に火をたいて煙で連絡する施設のことです。飛山城のある台地は、東山道を見渡せる場所にあるため、城の造られるはるか前に、古代ののろしの施設が置かれて、東北地方と都との間の緊急連絡に使われていたのです。

### 鬼怒川と河岸



鬼怒川（鬼怒橋付近）

鬼怒川は、栃木県北部の山岳地帯を水源とし、茨城・千葉県境で利根川に合流する、長さ約170kmの河川です。

江戸時代から明治時代のはじめにかけて、鬼怒川は船による水上交通が盛んで、数多くの河岸（川の港）が設けられていました。

現在の宇都宮市内にも、板戸・道場宿・鑑山・石井・桑島・阿久津などの河岸があり、東北地方南部や下野国（栃木県）北部の物資の輸送で大変賑わいました。

これらの河岸は、明治時代以降、近代的な交通機関が発達するとともに廃止されました。

板戸河岸の跡は「川の一里塚」となっており、かつての繁栄を偲ばせてくれます。



板戸河岸跡